

# 只見の水辺は、宝ものが いっぱい!!

## - 只見に生きる水生動物たち -

2008.8.29 資料 南相馬市博物館 稲葉 修

福島県の南西部に位置する只見町は、自然豊かなところ。浅草岳をはじめとする多くの山々の緑。只見川・伊南川の清流の透明さ。咲き誇る可憐な草花。秋の紅葉の紅。そして冬の真っ白い雪。

よそ者の私にとって、冬の雪はまだ未体験ですが、どの季節も素晴らしい只見の自然・遺産なのだと思います。月に1~2回、只見に通って生物調査をする度に、いつも新鮮な発見があり、どんどん只見の魅力に引き込まれていきます。今日は、只見で見つけた水辺の生き物についてご紹介するとともに、どんなところが只見のすごさなのか、そして、この「宝」をどう守り、未来の只見の子どもたちに残していったらいいのか、についてお話してみたいと思います。

### 只見町の淡水魚たち

福島県内の河川や湖沼では、2008年の7月現在、110種類ほどの魚種を確認しています(ヤツメウナギ類などの円口類含む)。このうち只見町からは、10科23種の魚を確認しました。しかし、もともと只見に生息していたと考えられる在来魚は、町の魚であるイワナやアカザ(ハチヨ・ハッチョ)、エゾウグイ(ホウナガウグイ・フウナガウグイ)、陸封型カジカなどを含む9種類だけです。これに、現在は下流にある発電用のダムを設置により遡上の途絶えたサケやアユ(現在放流個体が生息)、サクラマスなどを加えると、昔は只見に少なくとも12種類の在来魚が生息(遡上)していたようです(サクラマスと、その河川残留個体であるヤマメは1種として数える)。

只見の河川は全体的に流れが急で水温が低いため、生息する魚種は限られてきます。しかし、かつてはサクラマスの遡上数が多かったことが伝えられており、それを支えていたこの地域の森林や河川環境の良さが伺えます。現在、多くの溪流にはイワナやヤマメがすみ、各地で減少傾向にあるアカザや陸封型カジカが健在です。そして、何よりも、只見には全国的にも貴重な陸封型のカワヤツメが生息しています。その生息密度の高さと生息する距離(生息域)の規模には、全国の魚類研究者が驚きました。

現在、只見の田んぼにもみられるドジョウ、そして只見川や伊南川にも生息する二ゴイ(カーゼイ・カワゼイ)、カマツカ(カマギシ)などは、只見の河川環境やその魚の生態から考えると、その分布が不自然に感じられ、今のところ在来種とは言い切れません。地方名が残っていても、かなり古い時代から只見に持ち込まれた魚(国内外来種)である可能性があります。

また、現在、田子倉湖にはオオクチバスやブルーギルなどの外国からやってきた国外外来種がみられ、伊南川流域では、本来は中部地方以西に分布するイトモロコという国内外来種が増えています。

只見町では、もっと調査を進めれば、アユの放流に紛れ込んで、国内の他の地域から持ち込まれた魚種が見つかることと思います(只見町史資料集「会津只見の自然・2001」に掲載のあるハス・モツゴなど)。外来種対策は、今後、この地域の河川における大きな課題のひとつだと思います。



イワナ (サケ科)

只見町の魚。只見の多くの沢に生息していますが、在来の個体は少ないと思われます。写真の個体は伊南川支流の在来種と思われる個体。



ヤマメ (サケ科)

サクラマスの河川残留個体。



エゾウグイ (コイ科)

只見では、ホウナガウグイ、フウナガウグイなどと呼ばれるウグイの仲間。県内ではやや減少傾向にあります。



アブラハヤ (コイ科)

只見を含む会津地方全域でボヤと呼ばれています。川の中でも、流れのおだやかな場所に多い在来種です。



アカザ (ギギ科)

ハッチョ、ハチウオと呼ばれ、只見の人々にも馴染み深い魚ですが、環境の変化で近年減少しています。



シマドジョウ (ドジョウ科)

伊南川流域ではゲナッチョなどと呼ばれています。水質の良好な河川の砂地にみられるドジョウです。



オオクチバス (バス科)

国外外来種。駆除対策が望まれます。



トウヨシノボリ (ハゼ科)

川にすむハゼ。伊南川流域や田子倉湖に多い。国内外来種と考えられます。



陸封型カジカ (カジカ科)

各地で減少していますが、只見では健在です。

## 只見町の爬虫類と両生類 ……

只見町では、2008年の7月現在、4科9種の爬虫類と、6科13種の両生類を確認しました。これらは、福島県内に生息している爬虫類と両生類の在来種のほぼ大半の種です。

爬虫類では、ニホントカゲやカナヘビが広く分布し、県内でもやや減少傾向にあるヘビのヒバカリも町内各地から生息情報があります。また、ヘビやトカゲ類を捕食するシロマダラは、夜間の活動が多いため県内での確認事例は少ないのですが、只見町とその周辺では、現在までに10個体近くが見つかっています。これは、この地域での生息密度の高さと、生息環境の良さや捕食する小動物の豊富さを物語っています。

両生類では、トウホクサンショウウオやクロサンショウウオ、ツチガエルやモリアオガエルなどが山麓部から山間まで広く分布しており、特にモリアオガエルは、産卵期には比較的普通に親の姿を確認することができます。関東などでは、深山幽谷の水辺で産卵するというイメージの強いモリアオガエルが、人家近くの水田や庭先の池で産卵しているという光景は、只見など南会津ならではのものです。



シロマダラ (ナミヘビ科)

伊南川流域に比較的多く生息すると考えられます。毒はありませんが、攻撃性が強いです。



ヒバカリ (ナミヘビ科)

毒はなく、おとなしいヘビです。オタマジャクシや小魚を食べることもあります。



トウホクサンショウウオ  
(サンショウウオ科)



ヤマカガシ (ナミヘビ科)

町内に多いヘビです。毒ヘビなので、注意が必要です。



ハコネサンショウウオ (サンショウウオ科)

只見町には、3種類のサンショウウオが生息しています。トウホクサンショウウオとクロサンショウウオは町内各地に生息していますが、ハコネサンショウウオは水温の低い沢に幼生(子ども)が、その周りの森林に成体(おとな)がみられます。

クロサンショウウオ  
(サンショウウオ科)





アカハライモリ (イモリ科)

県内全域で減少傾向にあります。只見の水辺には、比較的多く生息しています。



トノサマガエル (アカガエル科)

シマビッキと言われているのが、このトノサマガエルです。福島県内では、トノサマガエルの分布が会津地方に限られ、減少傾向にあります。伊南川流域では生息密度が高い傾向にあります。



タゴガエル (アカガエル科)

只見では、5月に水のしみ出す岩盤の割れ目の奥などで産卵します。



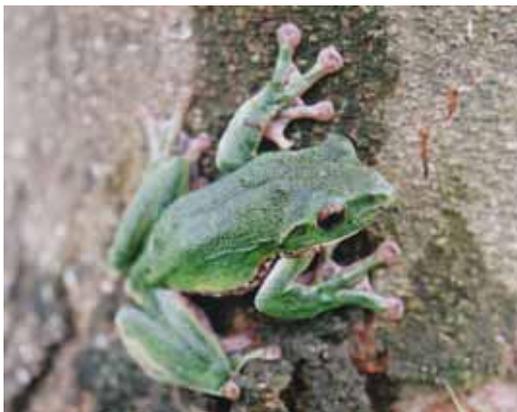
ツチガエル (アカガエル科)

只見に広くみられますが、県内の多くでは環境の変化で減少しました。



カジカガエル (アオガエル科)

オスの鳴き声は、只見の河川の初夏の風物詩です。



モリアオガエル (アオガエル科)

只見町のいたるところに生息しています。2008年は、6月中旬には、町内のあちこちの水辺に卵がみられました。



## 只見町の淡水二枚貝類

只見町とその周辺では、2008年の7月現在、3科4種の淡水二枚貝類を確認しました。

特に只見町の湿地や湧水地では、殻の大きさが5mmほどで大人の「ウエジマメシジミ」や「ハイイロマメシジミ」が見つかり、これは清らかな湧水が豊富にあることを意味しています。

殻の大きさが6cmほどのマツカサガイやヨコハマシジラガイは、自分の子供(グロキジウム)を魚に寄生させて繁殖する生態を持っていますが、只見を含む伊南川流域に昔存在した湿地、只見川本流にも生息していたという情報があります。しかし、これらの分布は自然分布でなく、人的要因によるものとも考えられます。



マツカサガイ (イシガイ科)



ヨコハマシジラガイ (イシガイ科)



ウエジマメシジミ (マメシジミ科)